

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	道徳教育の研究 (Moral Education)		授業コード	K005051
担当教員名	藪内 聡和			
配当学年	2	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	教職に就こうという強い意思をもって履修してください。			
受講心得	この授業では、受講者の積極的な発言による参加が重要です。			
教科書	佐野他『道徳教育の視点』、晃洋書房			
参考文献及び指定図書	授業中に、適宜、紹介します。			
関連科目	哲学概論A・B			

授業の目的	この授業では、教職に就こうとする学生が、道徳教育の指導をするために必要な知識・技能・態度を学ぶことを目的とし、道徳教育の基本から実践までを考察します。そのために、道徳教育の本質・目的を考究し、道徳教育の歴史、外国・日本の道徳教育の現状を確認したうえで、道徳性の本質、道徳教育に関する学習指導の方法等を検討します。
授業の概要	講義形式と討論により、道徳教育の研究を行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：現代の道徳的状況</b> 現代社会では、どのような道徳観を人々がもっているかを考察し、道徳教育を考える端緒とします。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第2週：道徳とは何か</b> 道徳と倫理の意味とその関係について考えます。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第3週：道徳教育の課題</b> 現代、学校で道徳教育を行うにあたっての課題を考察します。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第4週：道徳性の発達と教育1</b> デュルケムとピアジェの道徳性発達理論を説明します。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第5週：道徳性の発達と教育2</b> コールバーグとブルの道徳性発達理論を説明します。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第6週：道徳教育の方法1</b> 道徳教育の方法には、本質主義と進歩主義の流れがあることを説明します。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第7週：道徳教育の方法2</b> インカルケーションに基づいた道徳教育方法を実践します。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第8週：道徳教育の方法3</b> 価値明確化等に基づいた道徳教育方法を実践します。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第9週：我が国における道徳教育の展開1</b> 戦前の道徳教育が、明治政府の「近代化」政策としての修身の流れをくむものであることを学びます。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第10週：我が国における道徳教育の展開2</b> 戦後道徳教育の理念と方法について説明します。	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第11週：我が国における道徳教育の展開3</b>	予習：教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習：授業で紹介

「道徳」授業の現状と課題について説明します。		予習:教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習:授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第12週: 学習指導要領「道徳」1</b> 特設「道徳」と学習指導要領を解説します。		予習:教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習:授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第13週: 学習指導要領「道徳」2</b> 中学校学習指導要領「道徳」を解説します。		予習:教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習:授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第14週: 道徳性の構造</b> 学習指導要領「道徳」の道徳性の構造について解説します。		予習:教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習:授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第15週: 様々な道徳理論</b> カント・功利主義・デューイ等の道徳理論を考察します。		予習:教科書の該当箇所を読んでおいてください。復習:授業で紹介した参考文献を読みノート整理をしてください。
<b>第16週: 期末試験</b> 授業で学んだ内容を試験問題とします。持ち込みは不可です。		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	道徳教育の本質・目的に関心が持てる。
<b>【知識・理解】</b>	道徳教育の歴史を理解できる。 外国・日本の道徳教育の現状を理解できる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	道徳教育の方法を習得できる。
<b>【思考・判断・創造】</b>	道徳教育に関する学習指導の方法が身につく。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	30点			
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	30点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	10点	10点	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	10点			
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	授業内容をどの程度理解しているかを評価します。
発表・その他 (無形成果)	